

<p>教材名</p> <h2>的あてボード</h2>		
<p>〈教材のねらい・使い方〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールなど投げて当たると的が倒れやすくなるよう軽い材料（段ボール）で作成した。 ・自力でボールを投げたり、補助教材を活用したりして的をねらう。 ・フロア用とベッドサイド用にボードのサイズを変えた。 		
<p>材料及び作成の工夫等</p>		
<p>〈材料〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段ボールの強度を上げるため2枚重ねて接着する（紙おむつなどの大きいサイズの段ボールがよい）。 ・的が軽すぎて微風でも倒れるので、ボードの裏側に倒れにくいように台を付けた。的は縦、横どちらでもセットできる。 ・ボールは、ボールプール用を使用。（実態に合わせる） 		
<p>題材名と児童生徒の使用している様子等</p>		
<p>〈自立活動 体育的活動「秋のスポーツ“的あてゲーム”〉</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・3枚の的用的ボードに点数を付けて、各自で好きなように並べて（それも作戦）1セット一人3回ボールを投げて、時間に応じてセット数を決めて、合計得点で競った。 ・自力で投げる生徒は、回を重ねると的をねらえるくらい上手になった。 ・“バッティングマシーン”（分教室オリジナル補助具）でボールを発射させる児童生徒は、「3、2、1、そーれ！」の掛け声に合わせてられるようになったり、ひもを引く勢いが強くなったりして、積極的にゲームを楽しめようになってきた。 		
		
<p>〈自力で投げる〉</p>	<p>〈補助具を使用して〉</p>	<p>〈病室、ミニサイズ、補助具使用〉</p>